

学力調査等の状況	
<p>「全国学力・学習状況調査(第6学年)」の結果より                  &lt;国語&gt;漢字などの言葉の特徴や使い方に関する力、文章全体の構成や書き表し方に注目し文章を整えたり、表現したりする力が低い。昨年度低かった「互いの考えの共通点や相異点を考えながら話し合う力」は向上した。&lt;算数&gt;どの領域、観点とも全国平均よりやや高く、都の平均とほとんど差がない。昨年度低かった「論理的に考えて表現したり、見通しをもって解決したりする力」や、「問題文などを比較したり、関連付けたりして読み取る力」は向上した。&lt;理科&gt;どの領域、観点とも全国平均よりやや高く、都の平均とほぼ差がない。昨年度低かった「観察・実験の技能、科学的な思考・表現する力」や、「自然現象のしくみやその規則性についての知識・理解」は向上した。また児童への質問紙調査の結果から、地域や社会を意識した学習や総合的な学習における探究学習が効果的に実施されていることが分かる。一方、各教科で作品や作文などを創作したり表現したりする活動、道徳や学級活動で話し合いを通して課題や解決を見出す活動、学習の見通しをもって自分の課題に向き合う活動、算数や理科などで学習を生活にどう生かすかを考える活動などが十分でないと感じている児童がいることが分かった。</p> <p>「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査(第4学年～第6学年)」結果より                  分からないことがあったときに、他の人や先生に聞いて解決する児童が多い。一方で、自分の課題を明らかにして、見通しをもって計画的に学習を進めたり、学習方法を工夫したりすること、友達と話し合いや相談をしたり、協働活動をしながら学びを広げたり、深めたりすることが苦手な児童が多い傾向にある。また前の時間までに学習した内容と結び付けて考える機会が少ないと捉えている児童が目立った。</p>	

見えてきた課題	
<p>&lt;国語&gt;・学習した漢字や語句を文の中で活用する学力を育てる。学年の発達段階に応じて、目的や他者意識を明確にさせ、伝わりやすい文章を「書く」活動や、文の構成についての理解を深める活動の充実を図る。</p> <p>&lt;社会&gt;・昨年度から継続して、地図を使って方位についての理解を定着させる。・複数の資料を比較・分類したり総合したりして、課題解決に向けて考え表現する力を育てる。</p> <p>&lt;算数&gt;・図、表、式を相互に関連させたり、□を使った式を用いたりして、数量の関係を捉えられるようにする。・計算の仕方を筋道立てて説明することができるようにする。・数についての感覚を豊かにする。</p> <p>&lt;理科&gt;・複数の自然の事物や現象を比較し、それらの差異点や共通点を基に、問題を見出す力を育てる。・条件をそろえて適切な方法で調べたり、装置を組み立てて安全に実験を行ったりする技能を育てる。・自然の事物・現象について、生活体験などを基に、実感を伴った理解を図る。</p> <p>(各教科共通)                  自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動、算数や理科などで学習を生活にどう生かすかを考える活動などの機会を充実させる。自分の課題を明らかにして見通しをもって計画的に学習を進めたり、学習方法を工夫したりする機会、友達と話し合いや相談をしたりをしながら、課題を見出し学びを広げたり深めたりする活動、既習の内容と結び付けて考える活動の充実を図る。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた内容やタイミングで「navima」を活用し、全児童の基礎基本の定着を図る。</li> <li>・Googleアプリや読みのアセスメント・指導パッケージ「MIM」を効果的に活用する。</li> </ul>
価値ある対話の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由や根拠を明らかにしながら話したり、意欲をもって聞いたりできる機会を設定する。</li> <li>・ICTを活用し、考えを共有、交流、比較、分類、関連付け、練り上げ、焦点化等できる機会を設定する。</li> </ul>
認め合う・学び合う集団の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年で、多様な考えや思いを認めたり、受け入れながらコミュニケーションを取る機会を設定する。</li> <li>・各自の考えやアイデアなどについて、効果的に発表、話し合い、交流などができる機会を設定する。</li> </ul>

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多層指導モデル「MIM」を活用して、下学年を中心に流暢性、語を正しく読む力、上学年でそれを基にした読解力を身に付けさせる。</li> <li>○系統的に書く機会を設け、自分の思いや考えを構成を考慮して書くことのできる力を養う。</li> <li>○スピーチ、討論、ペア学習を取り入れ、全学年で系統的に指導し、聞く・話す力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読みのアセスメント・指導パッケージ「MIM」を効果的に活用し、つまづきの早期発見・早期支援をする。</li> <li>○経験したことや想像したことを順序よく書く力を養う。</li> <li>○スピーチなど、相手意識をもって話す活動を多く取り入れたり、ハンドサインを活用し、友達の意見を受け止めながら聞く意識をさせたりして、話す・聞く力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「MIM」のアセスメント結果を活用しながら、各自の実態に応じて、中心となる語や文、接続詞に着目して、段落相互の関係を考えながら読む力を養う。</li> <li>○文章を書く機会を多く設け、構成を考慮して書く力を向上させる。</li> <li>○スピーチや発表の機会を積極的に取り入れ、相手の考えを聞き、それに対して質問や感想を述べることができる力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「MIM」のアセスメント結果を活用しながら、各自の実態に応じて、主語、述語、修飾語などに着目させながら、文章を正しく読み取る力を養う。</li> <li>○構成を考慮して文章を書き、書いたものを読み合っってよいところを認め合ったり助言し合ったりすることを通して、表現の幅を広げて文章を書く力を養う。</li> <li>○スピーチ、討論、ペア学習など、考えを述べたり、友達の意見を聞いたりする活動を取り入れ、相手の立場や状況に合わせて聞く・話す力を養う。</li> </ul>
社会科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的事象の特色や意味を考える問題解決的な学習を展開し、調べたことから考える力を身に付けさせる。</li> <li>○各学年の目標に応じた社会事象の見方・考え方を働かせるための資料提示や学習活動を取り入れた授業作りを実践していく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料を効果的に活用して調べる技能を身に付けさせるために、地図帳、グラフなど各種資料や調査活動を積極的に取り入れる。</li> <li>○地域の社会事象の特色や相互の関連、意味を考えることのできる活動を充実させる。</li> <li>○地域社会について自分事として捉え、学習を生かす活動で、社会参画意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料を効果的に活用させるために、地図帳、地球儀、年表などを積極的に取り入れる。</li> <li>○我が国の国土や産業の様子、政治や歴史、国際理解に関する社会事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることのできる活動を充実させる。</li> <li>○我が国の社会について自分事として捉え、学習を生かす活動で、社会参画意識を高める。</li> </ul>
算数科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「navima」を活用し、基礎的基本的な知識の定着を図る。</li> <li>○課題提示・問題把握・問題解決・ふりかえりの学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。</li> <li>○思考力・判断力・表現力の育成に向け、図式化、立式方法の工夫など、数学的に考える力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体物・半具体物・ICT機器を有効に活用し、体験的な活動や視覚的支援を通して興味・関心を高めながら、基礎的・基本的な知識の定着を図る。</li> <li>○問題解決の際には、既習事項を使って自分なりの考えもつことのできる力を養う。</li> <li>○navimaを使って学習や家庭学習において学習内容の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体物等を有効に活用し、体験的な活動を通して興味・関心を高めながら、知識や技能の習得の意欲付けをする。</li> <li>○課題提示、問題把握、自分タイム、みんなタイム ふりかえりの流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。</li> <li>○navimaを使って学習や家庭学習において学習内容の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章題で演算決定をする際には、必要な数字や言葉に線を引かせたり、発表させたりする。</li> <li>○予想の段階で、どんな既習事項を使えるか確認し、解決の見通しをもたせる。</li> <li>○自力解決の時間を確保し、考えを「絵」や「図」、「表」で説明をさせること。また、友達の考えの発表を聞き、自分の考えと比べる活動を通して思考の深化を図る。</li> <li>○navimaを使って学習や家庭学習において学習内容の定着を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が観察や実験を十分にできる環境を整え、体験的に結論を導き出す学習活動を展開</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験・観察を十分に行える環境を整え、体験的に結論を導き出す学習活動を展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験・観察を十分に行える環境を整え、体験的に結論を導き出す学習活動を展開</li> </ul>

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

理科	<p>力に合った環境を準備し、仲間同様に結論を導き出す学習活動を展開する。</p> <p>○実験・観察の技能の向上を図るとともに、科学的思考力を育てるために、実験の予想や結果、考察等、問題解決的な活動の充実を図る。</p>		<p>する。</p> <p>○実験・観察を通して、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、その過程や結果について分かりやすく記録できるようにする。ICT機器も適宜活用し、観察するのが難しい生き物の様子などもじっくりと見られるようにする。</p> <p>○問題解決的な活動を通して、既習事項や生活経験などを根拠として予想を立てたり、考えたことを適切に表現したりする力を養う。</p>	<p>する。</p> <p>○実験・観察の学習活動を通して、目的に応じて器具や機器などを選択しながら調べ、過程や結果を適切に記録できるようにする。ICT機器も適宜活用し、互いの考えを共有したり、実験の手順や結果を確認したりできるようにする。</p> <p>○問題解決的な活動を通して、科学的な事象の仕組みや性質などについて自ら問題を見出したり、互いの考えを伝え合いながら多角的に考えたりする力を養う。</p>
<b>各教科における課題を改善するための指導の重点</b>				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<p>○児童の思いや願いを生かした活動を重視し、個人の新たな気付きを次の活動につなげることで、自ら学んでいくスパイラルを作っていくことを目指す。</p>	<p>○身近な人々や自然への関心と親しみをもち、生活上必要な習慣や技能を養う。</p> <p>○ICT機器を活用し、身近な人々と伝え合う中で、自分の生活をより良くする意欲を高める。</p>		
音楽科	<p>○低学年から、楽しく音楽表現をしたり、味わって聴いたりすることで、音楽に対する興味関心をもたせる。</p> <p>○曲想と音楽の構造などとの関わりに気付き音楽表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏のよさを見出しながら聞いたりすることのできる能力を養う。</p>	<p>○鍵盤ハーモニカや打楽器などの基本的な演奏の仕方や音階について学び、演奏する楽しさを実感できるようにする。</p> <p>○音楽表現への思いや鑑賞する豊かな心を育てるために、曲想と音楽の構造の関わりに目を向け自分の考えを取り入れながら演奏したり聞いたりできる能力を養う。</p>	<p>○学習のめあてを明確にし、児童自身が、何を学を学べばよいか理解したうえで学習を進められるようにする。</p> <p>○音楽の諸要素と、演奏方法の関係など、基礎的・基本的な知識や技能に何度も立ち返り、確認しながら学習を進めることで、これらを確実に身に付けさせ、高学年の学習に備える。</p>	<p>○これまで積み上げてきた基礎的・基本的な知識や技能を確認しながら学習を進めさせ、確実な知識や技能を基に、曲や演奏の良さに気付いたり、自らの思いや意図を表現したりできるようにする。</p> <p>○ICT機器の利用も含め、周囲の友達と意見を交わしながら学習を進める機会を多く設け、音楽に対する様々な思いや意図を知り、自らの考えを深められるようにする。</p>
図工科	<p>○感じたことを交流する中で作品の題材や材料の違い、表現の面白さに気付くことができるようにする。</p> <p>○発達段階に適した「考えや思いを伝え合い、高め合う活動」を学習に取り入れ、感じ取った良さや面白さを自分の表現活動に生かすことができるようにする。</p>	<p>○土、粘土、クレパス、ハサミ、のり等の身近で扱いやすいものを用いることで、基本的な用具の扱い方を学習できるようにする。</p> <p>○材料の特徴を自分の体で味わえるよう、活動を通して形の色、表し方の面白さ、材料の感じ等を実感させる。</p>	<p>○始めに学習のめあてと規律を提示することで、安心・安全に学習できるようにする。</p> <p>○積極的に鑑賞活動を行うことで、鑑賞活動や多様性を尊重する精神の基盤を築く。</p> <p>○様々な技法や素材との出会いを通して、造形活動を楽しむとともに表現の面白さに気付かせる。</p>	<p>○既習事項と系統性を意識し題材設定を行い、自ら成長を感じ主体的に活動に取り組めるようにする。</p> <p>○鑑賞活動を始めとする様々な活動において、他者が作品に込めた思いやねらいがあることを意識させ、多様性を尊重する精神を養う。</p> <p>○ICT機器を活用して振り返りやポートフォリオ作成を行うことで、課題をもって次の活動の見通しをもてるようにする。</p>
家庭科	<p>○安全に学習するための基礎的な知識の定着を図るとともに、基本的な技能を身に付けさせる。</p> <p>○学習のめあてと振り返りをさせることにより、生活に生かせる実践力を養う。</p> <p>○学習のめあてを意識しながら生活課題の改善についてジャムボードを使って意見交流する。</p> <p>○どの学習・作業においても粘り強くかつ安全に学習に取り組む意識を育てる。</p>			<p>○製作に必要な用具の扱い方や手縫いの仕方、ミシンの使い方を丁寧に教え、取り組ませる。</p> <p>○活動の見通しとゴールを明確にし、家庭生活につなげるようにする。</p> <p>○どの場面でのどのような事故が起きやすいのかを話し、予防を促していく。</p>
体育科	<p>○運動に親しむ態度を養うとともに、健康の保持増進と体力の向上を図ることのできる授業や体育行事(持久走・縄跳びの活動等)を推進する。</p> <p>○オリンピック・パラリンピック教育によるスポーツのすばらしさを実感できる授業を推進する。</p>	<p>○楽しくできる運動に親しむ態度を養うとともに、友達と認め合い学び合いながら、健康の保持増進と体力の向上を図ることのできる授業を推進する。</p>	<p>○自己の課題を見つけ、その解決のための活動を工夫し、考えたことを友達に伝え、運動に親しむ態度を養うとともに、健康の保持増進と体力の向上を図ることのできる授業を推進する。</p>	<p>○自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝え、運動に親しむ態度を養うとともに、健康の保持増進と体力の向上を図ることのできる授業を推進する。</p>
外国語科	<p>○日常生活について話される英語の内容を理解し、自分のことについて、先生や友達と英語で伝え合ったり、質問したり答えたりする力を伸ばす。</p> <p>○クロムブックやデジタル教科書を使い、学習した英語表現を活用できる学習場面を積極的に取り入れる。</p>			<p>○日常生活での表現、教師・友達の紹介、自分の状態を伝える表現を学び、それらを伝え合ったり、発表したり、英語で書いたりできる力を伸ばす。</p> <p>○ALTによる発音反復練習、デジタル教材やICT機器の活用、ペアワークやグループワークの導入を毎授業確保する事により、効果的な学習ができるように推進する。</p>

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<p>○目的意識を明確にし、追究意欲の向上や子供の発達段階を考慮した体験的な学習、「考えるための技法」やICT機器の効果的な活用を通して探究する学習を充実させる。</p> <p>○全学年で教科等横断的な「福祉・健康」「国際・伝統」「地域」「自然」「防災」等をテーマとし、地域の方々など様々な人と関わりながら実社会、実生活の中で総合的に活用できる学習の充実を図る。</p>		<p>○発達段階を意識的に、身近なところから課題を発見し、体験的な活動を通して、ICT機器を効果的に活用しながら探究する学習をしていく。</p> <p>○3学年では、伝統的な遊びに注目して地域の人たちの伝統・文化等について学習する。</p> <p>○4学年では、他の地域の伝統的な文化等に注目して学習し全ての地域社会には、その地域ならではのよさがあり特色があることを理解する。</p>	<p>○発達段階を意識的に、身近なところから課題を発見し、体験的な活動を通して、ICT機器を効果的に活用しながら探究する学習をしていく。</p> <p>○5学年では、地域の人々の暮らしや地域の特色ある伝統と文化について学習する。</p> <p>○6学年では、世界の文化や歴史、スポーツに注目して国際社会と伝統、福祉と健康等についてSDGsの観点からも学習する。</p>
特別の教科 道徳	<p>○道徳教育推進教師を中心に、「特別の教科道徳」の時間を要とした、教育活動全体を通じた系統的・段階的な指導の充実を図る。</p> <p>○「特別な教科道徳」では、教科書を主として、東京都道徳教育教材集等を活用しながら、児童一人一人が道徳的価値について自分と向き合いながら考える授業に改善するとともに、個々の成長を見取った評価を実践す</p>	<p>○児童にとって身近な題材を選ぶことで、自己の経験や感じ方と結びつけ、道徳的価値に気付けるようにする。</p> <p>○発言やペアトーク、役割演技等、様々な方法で自他の考えを共有し、物事を多面的・多角的に見る力を養う。</p>	<p>○児童にとって身近なことだけではなく、様々なことに興味・関心を広げて題材を選ぶことで、自分自身の努力だけではなく、家族や教師など、周りの人の励ましや賞賛等があるという道徳的価値に気付けるようにする。</p> <p>○発言やペアトーク等、様々な方法で自他の考えを共有し、物事を多面的・多角的に見る力を養う。</p>	<p>○児童にとって身近なことだけではなく、先人や著名人の生き方等に触れるような題材を選ぶことで、様々な生き方への関心を高めるとともに自己の向上のためにより高い目標を設定し、道徳的価値に気付けるようにする。</p> <p>○グループトークや討論等、様々な方法で自他の考えを共有し、物事を多面的・多角的に見る力を養う。</p>
特別活動	<p>○縦割り活動を通して、異学年交流の活性化を図る。</p> <p>○異学年交流を活性化させることで、高学年のリーダーシップを育てる。また、代表委員会を中心としたあいさつ運動やふれあい月間など、児童の主体的な活動を通して、人権感覚を高めていく。</p>	<p>○異学年交流の活性化を図る。</p> <p>○係活動や当番活動を活性化させることで、低学年の自主性を育てる。また、身の回りの整理や挨拶などの基本的な生活習慣を身に付け、節度のある生活をすることで、基本的な生活習慣の形成を図る。</p>	<p>○異学年交流の活性化を図る。</p> <p>○学級会を活性化させることで、互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして生活をする中でよりよい人間関係の形成を図る。また、早寝早起き朝ごはんカレンダーやSNSルール作りの学習を通して、心身ともに健康で安全な生活態度の形成を図る。</p>	<p>○異学年交流の活性化を図る。</p> <p>○給食の時間を中心としながら、健康により食事のとり方など、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通してよりよい人間関係を形成する。また、キャリア教育を通して、学級や学級での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常生活をよりよくしようとする態度の形成を図る。</p>
外国語活動	<p>○歌やチャンツ、デジタル教材等を使って、英語の語彙や語句の音声を聞いたり、発音したりする活動や会話の表現に慣れ親しむ活動を充実させる。</p> <p>○ICT機器を活用した授業改善、専科教員とALTが連携した指導を推進する。</p>	<p>○アルファベットに親しみ、歌、チャンツにより英語の音声に慣れ、発音できるような活動を充実させる。</p> <p>○ALTによる発音反復練習、および視覚的なツール活用の複合的なアプローチでより効果的な学習を推進する。</p>	<p>○歌、チャンツ、ゲーム活動を通して、日常的な英語のコミュニケーションを楽しみながらできるように指導する。</p> <p>○ALTによる発音反復練習、およびデジタルテキスト、パワーポイント、フリップチャートなどの視覚的なツール活用の複合的なアプローチでより効果的な学習を推進する。</p>	